

●ピラミーデの愛着形成 (Psychological nearness)

近年、オランダの乳児保育、ドイツのK I T A (全日制保育園) の急激な増加に伴い、ピラミーデの乳児保育に対する研究が進みました。現在、オランダ Cito 研究グループは、ピラミーデの乳児保育への有効性を実証するために、乳児実験グループの長期にわたる発達研究が開始されました。ピラミーデの理論的な柱である個別の発達保障の実践として、特定の保育者が「子どもの食べる、排泄する、午睡に入る」を特定の子どもに時間差をつけて世話する方法を採用しています。保育者と子どもの心理的愛着を形成する重要な時間です。子どもの生理的なリズム (家での朝食の時間、排泄の状況、睡眠の長さ等) を保護者から聞き取り、早く食べる子ども、先にトイレに行く子どもと、保育者の三交代勤務に合わせて世話をします。保育者の心理的愛着 (Psychological nearness) と心理的距離感 (Psychological distance) が実現させた方法です。

オランダのピラミーデ研究会で発表されたこの方法は、ドイツのピラミーデ乳児保育 (K I T A) にも導入され、幾つかの新しいことが分かって来ました。保育者との愛着が結ばれると、子どもは自分の行動に納得するだけでなく、次に自分がしなければいけない行動を予測し始めます。ピラミーデを講義するオランダの学者の説明では、保育者が補助スプーンで口に持っていき、口の中でそしゃくを始める行動を、筋肉がどのように動くかを調べた研究では、ピラミーデのように強い愛着と子どもの納得が優先された世話の仕方では、子どもの口にスプーンが運ばれた時点で口の筋肉運動が先に行われるといます。現在の乳児保育の課題は、子どもが落ち着かない、保護者との愛着が不十分で保育者への依存が強い、相手の行動を読み取れなくて引っかき、かみつきの多い悩みの中で、改めてピラミーデの保育者と子どもの愛着形成理論の重要性が分かって来ました。



〈食べている子ども、トイレが終わった子ども、まだ遊んでいる子ども、すでに眠っている子どもと、時間差で動いている。
写真はピラミーデ導入園 山口県防府市錦江保育園〉